

# 人口減少時代の新しい地域公共交通の 検討経過及び状況について

第25回与謝野町地域公共交通会議において、「人口減少時代の新しい地域公共交通について」を議題に議論をスタート（H30.10.23）

## （１）持続可能な地域公共交通の確立に向けた対応が必要

- 路線バスの低い輸送量
- 消費税増税（８％→１０％）に伴う運賃への反映
- 町財政負担増
- 加悦地域小学校（仮称）スクールバス新設との兼ね合い
- 高等学校の学舎制への移行や外来者需要を見据えた利便の確保
- コミュニティバスひまわり車両の耐用年数が数年先に到来

## （２）超高齢社会に向けた対応が必要

- 免許証自主返納など自家用車以外の移動手段を必要とする人の増加
- バス停までの移動が困難な人の増加
- 運転手不足

# 再編経過と現状

令和元年10月1日	<ul style="list-style-type: none"><li>●丹海バス与謝線・福知山線の競合により利用者が分散されていたため、与謝線に集約（国庫補助対象路線）</li><li>●与謝から共栄高校前を新たな福知山線とした。（福知山市・与謝野町により欠損補填する形で運行）</li></ul>
令和2年10月1日	<ul style="list-style-type: none"><li>●丹海バス病院線が国の補助金要件を満たさなくなることを確認していたことから、峰山から四辻に再編（京丹後市内ルート変更あり）</li><li>●町営バス岩屋線の新設、奥滝線及び加悦奥・石川線の一部ルート変更を行い、全3路線を週3日運行に拡充</li></ul>

## ■丹海バス

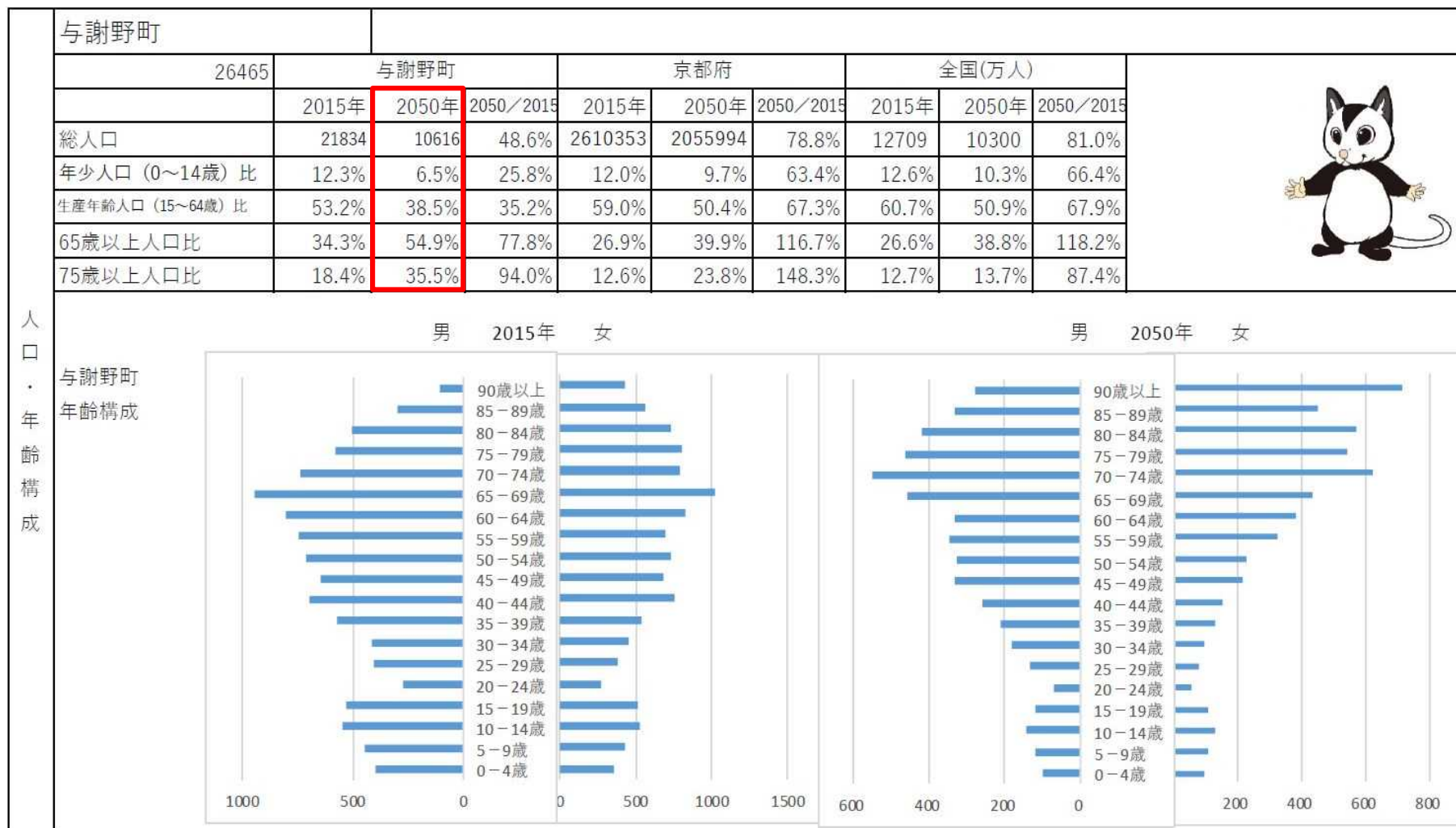
- ・R元年から順に路線再編し効率的な運行に改善
- ・一定の成果が見られたが状況は依然として厳しく、今後も人口減少を背景により厳しい状況となる予想

## ■町営バス

- ・3日/週、4便/日の運行
- ・運行経費10,618千円・運賃収入836千円（R2年度実績）
- ・利用者減少傾向
- ・町の財政状況については、すべての財政指標が大変厳しい状況

# (参考) 人口及び人口構成の推移と将来の見通し

2015年に34.3%であった65歳以上人口比が、30年後の2050年には50%を超えるなど、人口構造が急速に変化



# 住民の主な声

- ・バスの便数が少なくて不便
- ・町営バスは午前 1 往復・午後 1 往復で不便、路線バスへの乗継ぎも不便
- ・バス停までが遠く高齢者には辛い
- ・タクシーは便利だが運賃が高いため頻繁に利用できない、台数が少ないためにすぐに利用できない
- ・運転免許証を返納したいが、公共交通が不便で返納できない
- ・ある程度安価で自由に乗り降りできる公共交通が欲しい

**現状に大きな不満あり、利便性の高い移動手段が求められている**

# 人口減少時代の新しい地域公共交通に向けて

- ①高齢化率は年々上昇しており（2015年国勢調査実績で約34%）、日常生活においてますます利便性の高い移動手段が求められている
- ②一方で主な利用者層の高齢者数が減少局面に入っており、どのようにして生活交通を維持するか

## 【方向性】

- ・全体最適と、より利便性の高い移動サービスの提供
- ・地元交通事業者による持続可能な交通体系
- ・産官民の協働による地域交通の維持・活性化

新しい公共交通需要の顕在化

**<幹線系統と域内移動イメージ図貼り付け>**